

観光社会資本の事例

テーマ	琉球王朝時代を偲ばせる石畳道
【施設の状況写真】	 <p data-bbox="248 842 1283 938">昭和60年8月に「日本の道100選」に選定された、真玉道の島添坂(シマシービラ)は、首里城下町の絶好の散策路として市民や観光客から好評を得ています。</p>
【施設の利用写真】	 <p data-bbox="443 1473 1086 1529">緑陰の中、散策を楽しむ観光客</p>
【観光資源としての利用状況】	<p data-bbox="150 1552 1445 1585">首里地域は、琉球王府時代の城下町としての形態が戦前まで残されていましたが、去る第2次世界大戦によって大部分が灰塵に帰す程の被害を受けましたが、奇跡的に戦禍を免れた首里金城町一帯は、石畳道、石垣を中心とする往時の姿を現在に伝えています。その中でも、県指定文化財(史跡)である真玉(珠)道は、1522年に当時の琉球王府によって整備された公道「宿道」()として、首里城「守礼の門」を起点に本島南部(島尻方面)を結ぶ交通の要路として、また、首里城と王家の別邸である識名園を結ぶ重要な道でありました。現在は観光地でもある首里城公園と相まって、県内外の多くの観光客に琉球王府時代のロマンに触れることが出来る散策路として親しまれています。また、本路線のある首里金城町は、都市景観形成地域に指定され、歴史的・伝統的環境の保全・育成が図られています。</p>

琉球王府時代の道の規格について「宿道」=現在の国道、「脇道」=現在の県道、「原道」=現在の農道等

テーマ	琉球王朝時代を偲ばせる石畳道
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 <small>まだまみちせん</small> 真玉道線</p> <p>所在地 <small>なはししゅりきんじょうちやう</small> 那覇市首里金城町2丁目</p> <p>事業名 身近なまちづくり支援街路事業</p> <p>事業主体 那覇市</p> <p>事業期間 昭和57年度 ~ 昭和58年度</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p><small>まだまみちせん</small> 真玉道線を中心とする <small>しゅりきんじょう</small> 首里金城地区は、古くからの町並みが形成され、道路の多くも狭隘なため、那覇市内の他地区と比べ下水道などの生活基盤整備が遅れ、また、道路構造上、限られた空間にしか設置できない電柱及び架空線、露出水道管、つぎはぎに修繕したコンクリート舗装などにより既存の石畳道・石垣などの歴史的景観を阻害していますが、真玉道線を含む首里金城地区細街路について、歴史的環境と調和した生活基盤整備を行い、住民生活環境の向上と歴史的環境の保全・育成を図ります。</p> <p>真玉道線の島添坂(シマシーピラ)区間(赤色実線部分)については、昭和58年度に整備を完了し、首里城公園と城下町首里金城地区との歩行者のアクセスが向上し、県内外の多くの観光客にも琉球王府時代のロマンに触れる事のできる散策路として大いに利用されています。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】</p>	